

共通教育科目「博物館入門」を担当して

教育地域科学部 生涯学習講座 宇野 文男

共通教育科目の「博物館入門」を最初に開講したのは2001年の後期からである。この科目を担当するようになったのは、次のようないきさつがある。1999年の教育学部改組により、教育地域科学部で博物館等の専門職員である学芸員の資格を取得できるようになり、2000年からその関連科目をいくつか開講しはじめた。ちょうどそのころ県内各地に橘曙覧記念文学館、縄文博物館、福井県立恐竜博物館などの博物館の新設や、県立歴史博物館などのリニューアルオープンがあい次いだ。

そのようななかで学校教育に関わる学生も含め、大学生が意外と博物館等に行っていないことがわかった。そこで考古、歴史、民俗、美術など地域のさまざまな情報を提供してくれる博物館や美術館などの利用の仕方、その楽しみ方などを紹介する専門的な講義でなく、多くの学生が幅広く履修できる科目として共通教育科目の一つに加えることになった。

近隣の美術館や博物館での授業を考えて定員を30名と限定したため、当初から競争倍率は非常に高かった。そのようななかから選ばれた学生だから、かなり博物館等に行ったことがあったり、興味があるのかと思っていたら、案外そうでもない。自ら足を運ぶ機会がなかった、行く時間がとれない、そこまで行くのに遠い等々さまざまな理由で、意識して博物館を利用している学生は少数であった。時間や場所の制約のなかで実際に博物館等での学外授業をしてみると、また来たい、よく理解できたなどおおむね好評であり、敷居が高いのか、いわゆる食わず嫌いなのか…。

教育地域科学部での専門教育の授業と違い、履修生はさまざまな地域の出身者が多く、また所属している専攻も多岐に

わたり、建築建設工学、機械工学、知能システム、物理工学、情報メディアなど工学部の学生がほとんどを占めている。そのため博物館の建築と設備、情報機器など履修生の専攻にも関連する話題も講義のなかでとりあげるようにしている。国立の博物館には設置法の違いから学芸員のポストがないことや、「博物館法」でいう博物館には、単に博物館だけでなく、動物園、植物園、水族館も含まれること紹介し、それらの施設も含め国内外の各種の博物館をビデオで紹介しながら、その設立目的、活動、どのように利用したらよいか考えてもらうことにしている。博物館関連の新聞記事も多用し、いま博物館を取り巻く状況について、さまざまな視点から履修生と一緒に見つめなおそうとこころがけている。

昨年度は共通教育としては初めての試みとして、県内の地域で活躍しているの方々をお招きし、授業をしていただく機会を設けた。そのトップバッターとして福井県立歴史博物館長の仁科章氏に「文化財行政」についてお話ししていただいた。現場での思いを直接語っていただき、履修生にとっても刺激になったのではないかと思います、今後もこういう機会を作っていきたいと考えている。

また今年の秋に計画している公開講座では「博物館の最前線2006」(10・11・12月)と題して、各地の博物館等の学芸員とのトークショーをする予定で、学芸員の生の声をきくため履修生にも出来るだけ参加を呼びかけようと思っている。共通教育の教養教育・副専攻科目の自分の専門にとらわれず、広い分野の知識や考え方を身につける本来の目的に沿って、この「博物館入門」を履修し、より視野を広げてみませんか。